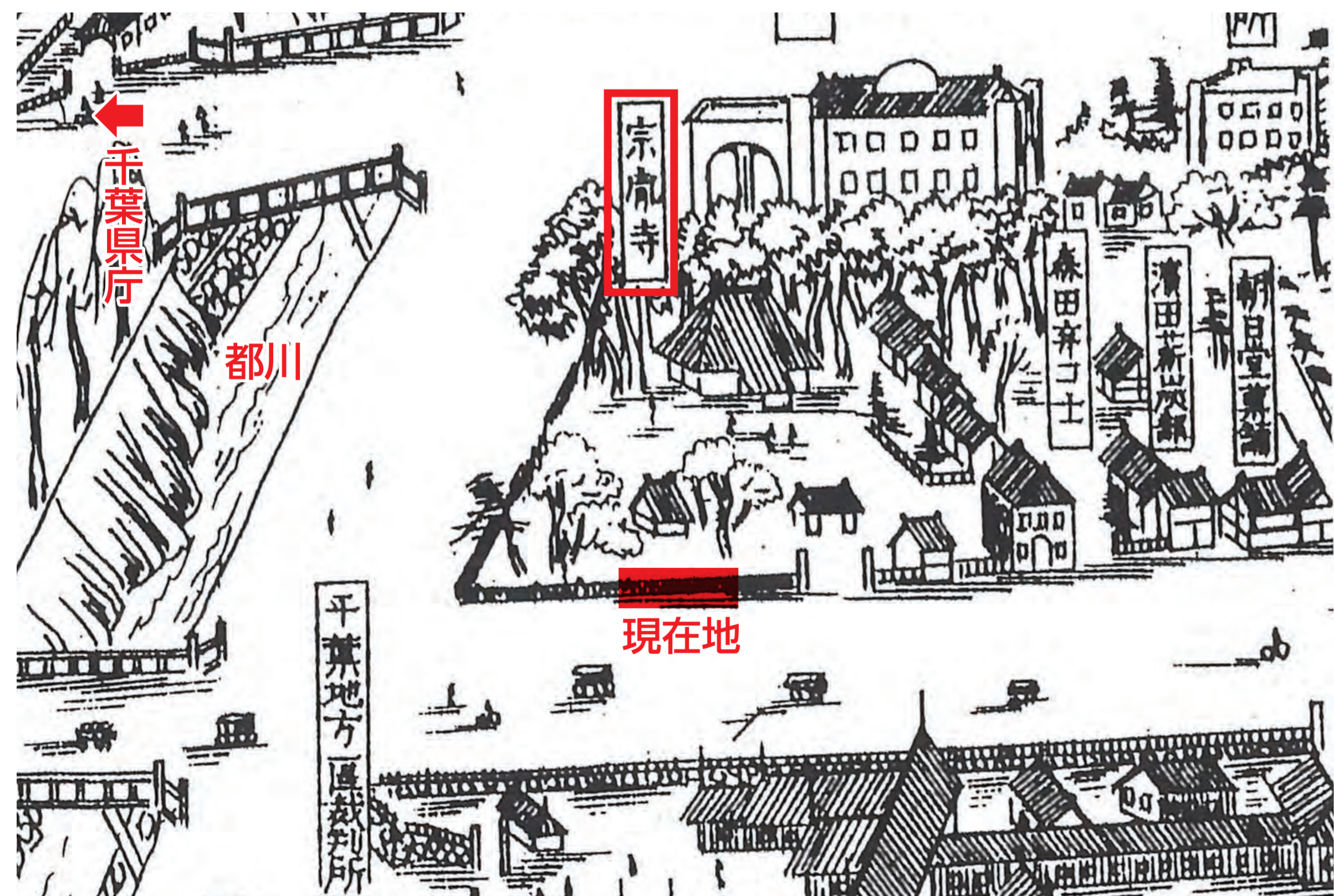


肥前千葉氏の祖、宗胤が開いた寺

かつてこの地には、千葉宗胤むねたねが父頼胤よりたねや一族家臣のために建立したと伝わる宗胤寺そういんじがありました。境内には15世紀中頃のものと考えられる伝千葉宗胤五輪塔ごびょう（千葉市指定文化財）があり、そのかたわらには御廟の松と呼ばれた老木がありました。昭和20年（1945）の空襲でお堂などが焼失し、戦後、宗胤寺は五輪塔とともに中央区弁天へ移転しました。

宗胤は、肥前千葉氏の祖となった人物です。父の頼胤は、蒙古襲来に際しモン



『千葉市街鳥瞰』 昭和2年（1927） 成田山仏教図書館蔵

ゴル軍と戦い、その時負った傷により建治元年

（1275）に没しました。宗胤は跡を継ぎ、千葉常胤つねたねの時代から伝わった所領である、肥前国小城おぎ（現在の佐賀県小城市）で再度の襲来に備えました。永仁2年（1294）に没しましたが、子孫は下総に残った一族との対立を経て、肥前千葉氏として繁栄しました。

この場所の東隣、現在の千葉地方裁判所の地は、徳川家康の館があったことから御殿跡ごてんあとと呼ばれ、未だ所在が明らかになっていない千葉氏の館の候補地とされています。ここに宗胤寺があったことは、館の所在やかたを考える上で注目されます。



伝千葉宗胤五輪塔（千葉市中央区弁天）